

「高齢者の生活と健康に関する調査，高齢期の生活と健康に関する意識調査」報告書の作成について

現在，京都市では，京都市民長寿すこやかプラン推進協議会において，「京都市民長寿すこやかプラン（京都市高齢者保健福祉計画・京都市介護保険事業計画）」見直しのための協議を行っています。

この度，平成 16 年 12 月に実施した標記のアンケート調査結果をとりまとめ，下記のとおり報告書を作成しましたので，お知らせします。

記

1 報告書の概要

- (1) 仕 様 A4 版 221 頁
- (2) 作成部数 500 部
- (3) 配布時期 平成 17 年 9 月 1 日から
- (4) 配布場所 保健福祉局長寿社会部長寿福祉課

なお，長寿福祉課のホームページで，平成 17 年 9 月 1 日から報告書の内容を閲覧・ダウンロードできます。

(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/chojubu/chojufukushi/index.html>)

この他，市役所西庁舎 1 階南側「情報公開コーナー」においても閲覧することができます。

2 調査の概要

(1) 調査目的

介護サービスの利用状況や今後の利用意向等を把握し，各サービスの見込量設定等の基礎データを得るとともに，介護保険制度や高齢者保健福祉全般に関する市民の意向を把握し，「京都市民長寿すこやかプラン」の見直しに向けての基礎資料を得るため。

(2) 調査期間

平成 16 年 12 月 1 日～ 12 月 14 日

(3) 調査方法

郵送による調査

(4) 調査の種別と調査対象，回収率

種別	調査対象	発送数	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査	要介護（要支援）認定を受けていない 65 歳以上 4,000 人（抽出）	4,000	2,784	69.6%
若年者調査	40 歳以上 65 歳未満 3,000 人（抽出）	3,000	1,406	46.9%
居宅サービス利用者調査	介護保険の居宅サービス利用者 3,000 人（抽出）	3,000	1,759	58.6%
居宅サービス未利用者調査	要介護（要支援）認定を受け，介護サービスを利用していない居宅生活者 1,500 人（抽出）	1,500	790	52.7%

及び ~ を「高齢者の生活と健康に関する調査」， を「高齢期の生活と健康に関する意識調査」として実施

(5) 主な調査内容

種別	高齢者一般調査 若年者調査	居宅サービス利用者調査 居宅サービス未利用者調査
調査内容	基本属性 身体・生活の状況 外出の状況 介護予防に関する意向 在宅ケアに関する意向 介護保険に関する意向	同左 介護サービスの利用状況 施設入所に関する意向 介護者の状況と意向

(6) 主な調査結果

「心身の変化への対応・改善の有無」について

- ・ 高齢者一般(以下「高齢者」という。)で，心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の約 75%を占めている。
- ・ 「改善に取り組んでいる」人は 35.3%である。
- ・ これを男女別にみると，男性 32.4%に対し，女性 37.4%と，女性の方が高くなっている。[P.5]

「介護保険施設への早急な入所希望」について

- ・ 早急な入所を希望する人が，居宅介護サービス利用者(以下「利用者」という。)で 33.7%となっている。[P.20]

「住まいと介護(又は要介護になった場合)において希望する暮らし方」について

- ・ 各調査において，「主に在宅福祉サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」と「主に家族に介護してもらいながら自宅で暮らしたい」を合計したものが，高齢者 64.9%，若年者 57.0%，利用者 75.4%，居宅介護サービス未利用者(以下「未利用者」という。)60.1%となっている。[P.7,13,20,30]

「今後の保険料のあり方」について

各調査毎に最も多かったものとしては，

- ・ 若年者では「保険料が高くなってもサービスを充実させるべき」が 20.1%
- ・ 高齢者では「介護保険サービス量を抑えて保険料を安くするべき」が 24.2%
- ・ 利用者，未利用者では「現状程度でよい」がそれぞれ 38.8%，21.8%となっている。[P.9,15,23,33]

高齡者の生活と健康に関する調査
高齡期の生活と健康に関する意識調査

報 告 書
(概要版)

京 都 市

目 次

調査の概要	
1 調査目的	1
2 調査の種別と調査対象	1
3 調査内容	1
4 調査期間	1
5 調査方法	1
6 回収結果	2
7 報告書の見方	2
高齢者一般調査	
1 対象者についての基本的事項	3
2 身体・生活の状況について	4
3 介護予防と介護のあり方について	5
4 介護保険制度について	8
若年者調査	
1 対象者についての基本的事項	10
2 身体・生活の状況について	10
3 介護予防と介護のあり方について	11
4 介護保険制度について	14
居宅サービス利用者調査	
1 対象者についての基本的事項	16
2 身体・生活の状況について	18
3 介護保険サービスの利用状況	19
4 介護予防と介護のあり方について	20
5 介護保険制度について	22
6 在宅介護の状況について	24
居宅サービス未利用者調査	
1 対象者についての基本的事項	25
2 身体・生活の状況について	27
3 介護保険サービスの利用状況	28
4 介護予防と介護のあり方について	30
5 介護保険制度について	32
6 在宅介護の状況について	34

調査の概要

1 調査目的

本調査は、介護サービスの利用状況及び今後の利用意向等を把握し、次期介護保険事業計画における各サービスの見込み量設定等の基礎データを得るとともに、介護保険制度や高齢者保健福祉施策全般に対する市民の意向を把握し、「京都市民長寿すこやかプラン」（京都市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）の見直しに向けての基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の種別と調査対象

種別	調査対象
A 高齢者一般調査	要介護（要支援）認定を受けていない 65歳以上の方 4,000人（抽出）
B 若年者調査	40歳以上65歳未満の方 3,000人（抽出）
C 居宅サービス利用者調査	介護保険の居宅サービスを利用している方 3,000人（抽出）
D 居宅サービス未利用者調査	要介護（要支援）認定を受けているが、 介護サービスを利用していない方 1,500人（抽出）

3 調査内容

(1) 高齢者一般調査・若年者調査

- | | |
|----------------|-------------------|
| ア 基本属性 | エ 介護予防に関する取り組みと意向 |
| イ 身体・生活の状況 | オ 介護と在宅生活に対する意向 |
| ウ 外出や生きがい活動の状況 | カ 介護保険制度に対する意向 |

(2) 居宅サービス利用者調査・居宅サービス未利用者調査

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ア 基本属性 | キ 施設への入所申込の状況 |
| イ 身体・生活の状況 | ク 介護予防に関する取り組みと意向 |
| ウ 外出や生きがい活動の状況 | ケ 介護と在宅生活に対する意向 |
| エ 介護サービスの利用状況と利用意向 | コ 保険料、利用料に対する意向 |
| オ 介護サービスの未利用理由 | サ 在宅介護の状況と意向 |
| カ 介護サービス等の情報に対する意向 | |

4 調査期間

平成16年12月1日～12月14日

5 調査方法

郵送法

6 回収結果

種 別	発送数	有効回収数	有効回収率
A 高齢者一般調査	4,000	2,784	69.6%
B 若年者調査	3,000	1,406	46.9%
C 居宅サービス利用者調査	3,000	1,759	58.6%
D 居宅サービス未利用者調査	1,500	790	52.7%

7 報告書の見方

- (1) 集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
M A % (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 回答比率(%)はその質問の回答者数を基数(N = Number of case)として算出した。なお、回答者数が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることが難しいため、図表に数値は掲載しているが、文章中では言及していない。
- (4) 「C 居宅サービス利用者調査」及び「D 居宅サービス未利用者調査」の調査対象者の抽出を本市の介護保険被保険者・受給者台帳データを用いて実施したが、対象者の抽出の資料とした給付実績(利用月)と調査時点との時間差により、介護サービスの利用有無の回答で抽出区分と違う回答をした方があった。調査票はすべて同一の質問項目を用いているため、集計に当たっては、回答内容によって、介護サービスの利用者・未利用者に振り分けた。
- (5) 本調査結果を、要介護(支援)者の出現率や各介護サービス量の見込み量設定等に活用するためには、年齢階層別や要介護度別に、十分な分析ができるだけの回答数を得る必要がある。このため、「A 高齢者一般調査」及び「B 若年者調査」については、標本数を年齢5歳階級別に同数ずつ配分することにより、最小の分析単位における有効回収数が100以上となるように設定した。同様に、「C 居宅サービス利用者調査」及び「D 居宅サービス未利用者調査」については、要介護度別に同数ずつを配分した。回収票の集計に当たっては、母集団における年齢構成比及び要介護度別構成比を反映するために、ウエイトをつけて集計した。本報告書における回答比率(%)はウエイトバック後の数値である。なお、ウエイトバック後の調査数と、各カテゴリーの回答数の合計とは、小数点以下の四捨五入の関係で一致しない場合がある。
- (6) 平成16年12月24日付け厚生労働省老健局長通知以降、「痴呆」に替わる用語について行政用語は「認知症」に変更されたところであるが、調査時点において調査票の選択肢に「痴ほう」を用いていたことから、本報告書でもそのまま使用することとした。

高齢者一般調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 年齢別・性別構成

問1 あなた（宛名のご本人：以下の問も同じ）の年齢は。（ は1つ）

問2 あなたの性別は。（どちらかに ）

図 年齢構成

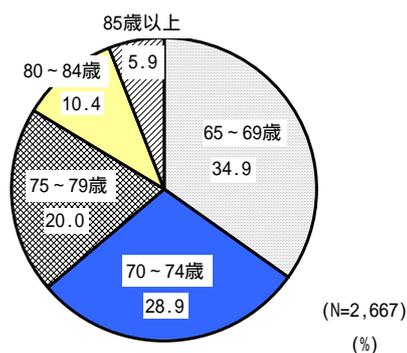
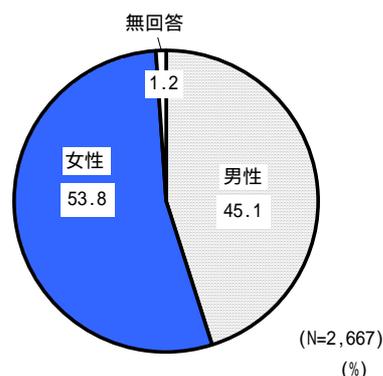


図 性別構成



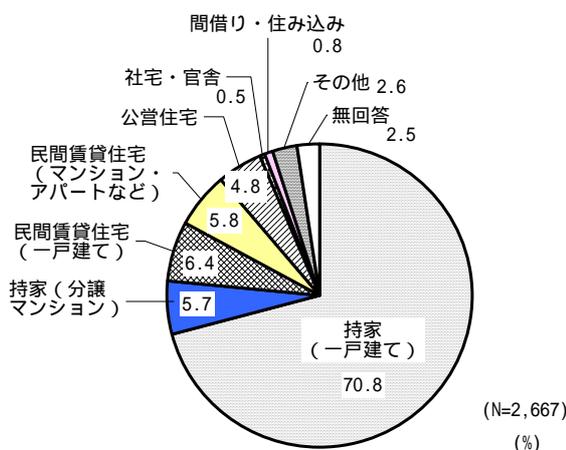
調査対象者の年齢構成は、「65～69歳」が34.9%と最も多く、「85歳以上」が5.9%と最も少なくなっている。

性別構成については、男性45.1%、女性53.8%と女性の方が多くなっている。

(2) 住まいの形態

問4 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（ は1つ）

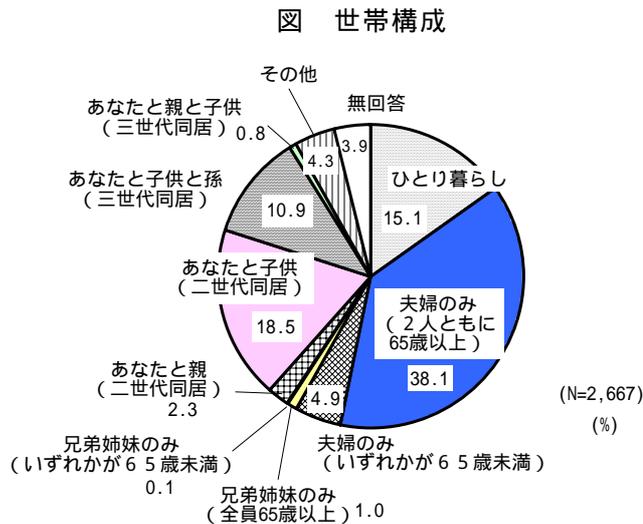
図 住まいの形態



住まいの形態をみると、「持家（一戸建て）」が70.8%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（一戸建て）」が6.4%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が5.8%などとなっている。

(3) 世帯の状況

問6 ご家族の状況について、お答えください。(は1つ)

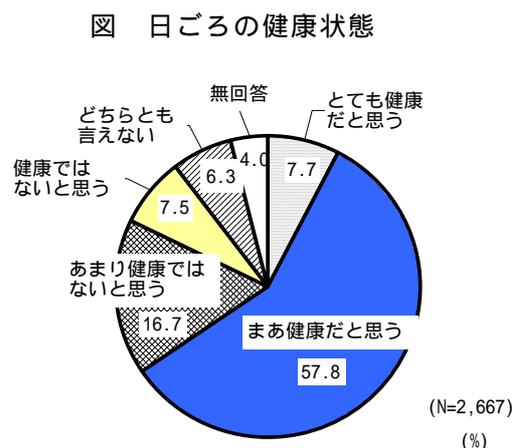


世帯構成は「夫婦のみ (2人とも65歳以上)」が38.1%と最も多く、次いで「あなたと子供 (二世世代同居)」(18.5%)、「ひとり暮らし」(15.1%)、「あなたと子供と孫 (三世世代同居)」(10.9%)となっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 日ごろの健康状態

問8 あなたの日ごろの健康状態はいかがですか。(は1つ)



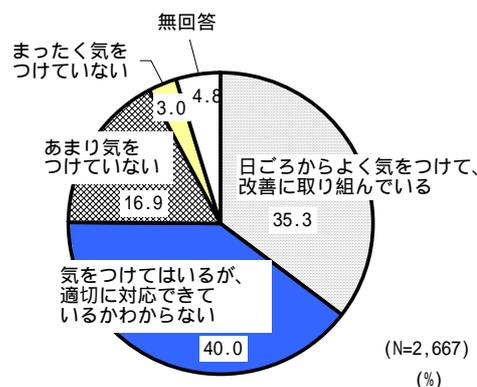
日ごろの健康状態については、『健康だと思おう (計)』(「とても健康だと思おう」に「まあ健康だと思おう」を加えた割合)が65.5%を占め、『健康ではないと思おう (計)』(「健康ではないと思おう」に「あまり健康ではないと思おう」を加えた割合)は24.2%となっている。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

問22 あなたは日ごろ、ご自分の心身の変化（足腰のおとろえ、気力がわかず何もしたくなるなど）に気を配り、早目に改善しておられますか。（ は1つ）

図 心身の変化への対応・改善の有無



心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の約 75% を占め、「改善に取り組んでいる」人は 35.3% となっている。

表 性・年齢別 心身の変化への対応・改善の有無

	調査数 (N)	(%)				
		日ごろから改善に取り組んでいる	気をつけてはいるが、適切に対応できているかわからない	あまり気をつけていない	まったく気をつけていない	無回答
男性 (全体)	1202	32.4	39.5	21.0	3.3	3.8
65～69歳	438	31.9	37.5	23.7	5.2	1.7
70～74歳	357	31.9	38.5	22.2	1.5	5.9
75～79歳	241	31.1	43.9	18.0	2.5	4.5
80～84歳	106	36.3	41.4	15.8	3.3	3.3
85歳以上	59	36.8	38.9	14.1	4.9	5.4
女性 (全体)	1434	37.4	40.6	13.7	2.7	5.6
65～69歳	491	36.2	39.2	15.4	3.5	5.8
70～74歳	393	37.7	43.8	12.8	1.0	4.7
75～79歳	287	39.7	39.3	13.1	2.8	5.2
80～84歳	167	39.8	40.7	11.2	2.7	5.6
85歳以上	95	32.0	39.0	15.0	5.0	9.0
無回答	31	50.1	33.5	4.3	3.2	8.9
合計	2667	35.3	40.0	16.9	3.0	4.8

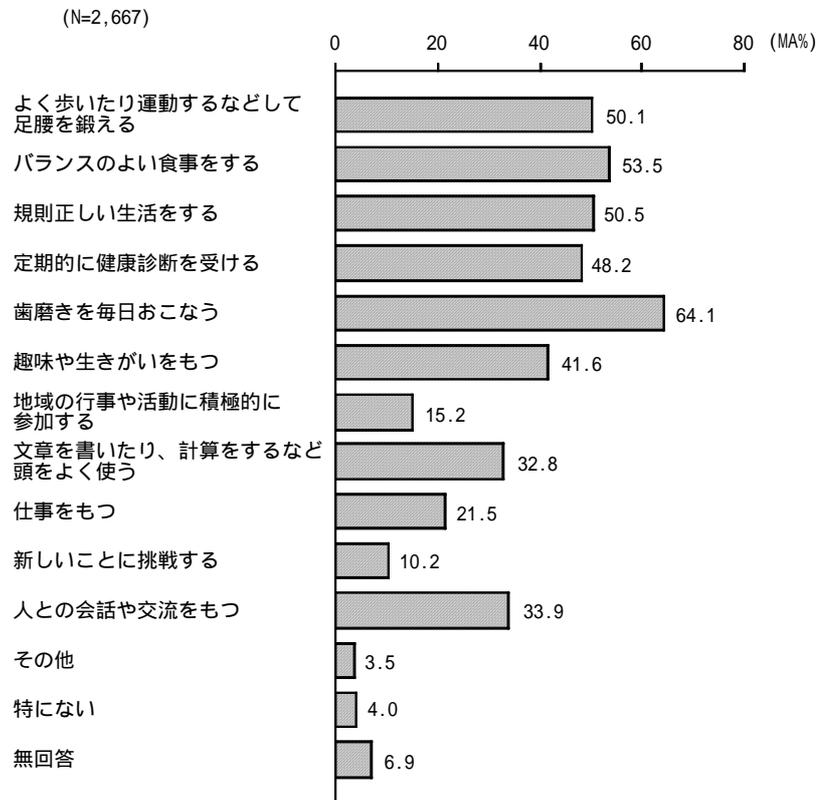
男性全体と女性全体を比べると、「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」人の割合は、男性 32.4% に対し、女性 37.4% と、女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、「あまり気をつけていない」人の割合は、男性の前期高齢者で 20% 強と高くなっている。

(2) 病気・老化の予防のために取り組んでいること

問25 あなたが日ごろ、病気の予防や健康づくり、老化の予防のために取り組んでおられることは何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 病気・老化の予防のために取り組んでいること

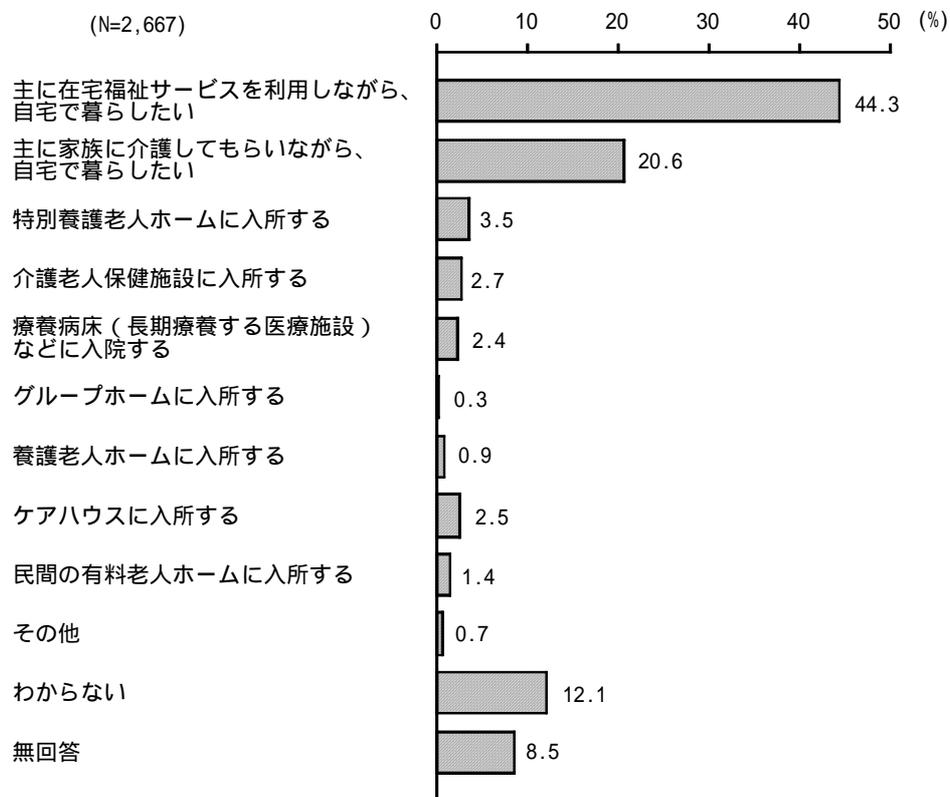


病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「歯磨きを毎日おこなう」が64.1%と最も多く、次いで「バランスのよい食事をする」(53.5%)、「規則正しい生活をする」(50.5%)、「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」(50.1%)、「定期的に健康診断を受ける」(48.2%)などとなっている。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

問27 もし、あなたに介護や援護が必要となった場合、住まいと介護についてどのような暮らし方を希望しますか。(は1つ)

図 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



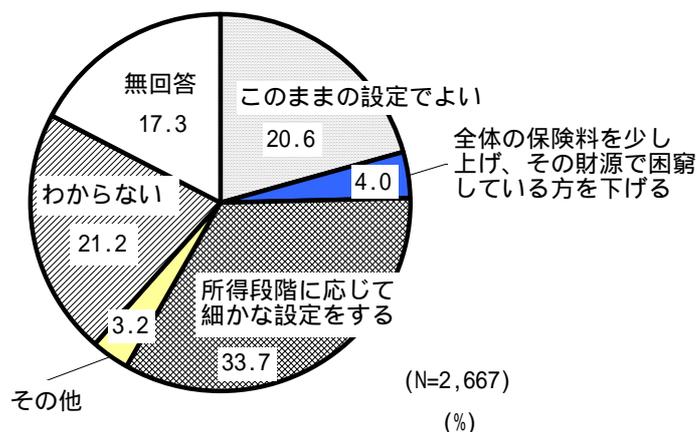
調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が44.3%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が20.6%となっており、合計すると全体の64.9%が自宅での生活を希望している。

4 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定方法について

問30 介護に必要となる費用の一部（約18%）は、第1号被保険者（65歳以上）が所得に応じて負担する保険料でまかなうことになっています。現在の所得段階別保険料は下記の表にあるとおりですが、この設定方法などについて、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。なお、制度の仕組みとして、低所得層（第1段階や第2段階）の保険料を軽減すれば、それ以外の方の保険料が増えることになります。（ は1つ）

図 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が33.7%と多く、「このままの設定でよい」は20.6%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は4.0%となっている。

【京都市における現在の第1号被保険者保険料】

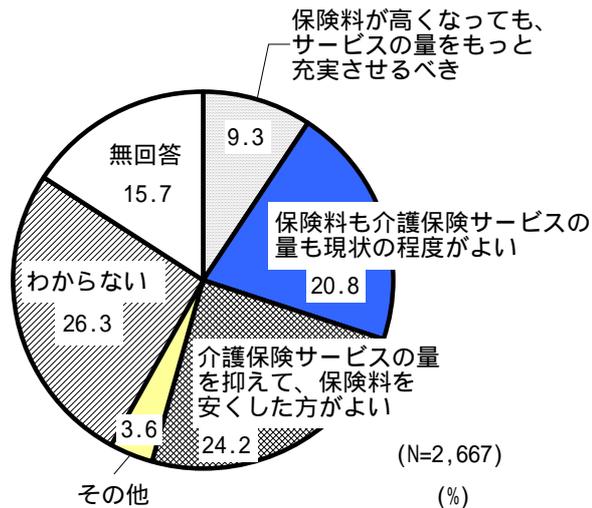
所得段階区分		設定の考え方	月額保険料
第1段階	本人が生活保護を受給している場合 本人が老齢福祉年金を受給し、本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合	基準額 ×0.5	1,933円
第2段階	本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合（本人が単身の場合を含む）	基準額 ×0.75	2,900円
第3段階	本人が市民税非課税で、世帯員の中に市民税課税者がいる場合	基準額	3,866円
第4段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円未満の場合	基準額 ×1.25	4,833円
第5段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円以上の場合	基準額 ×1.5	5,799円

あなたの介護保険料の所得段階区分については、平成16年7月に本市がお送りした平成16年度介護保険料の通知書に記載しています。

(2) 今後の保険料のあり方について

問31 介護保険制度では、施設サービスの利用者の割合が高いほど、また、利用者1人当たりの利用される介護サービス量が多いほど、介護保険料が高くなります。
 今後の保険料のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。
 (○は1つ)

図 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」がともに20%強と多く、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」は9.3%となっている。

若年者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 年齢別・性別構成

問1 あなた（宛名のご本人：以下の問も同じ）の年齢は。（ は1つ）

問2 あなたの性別は。（どちらかに ）

図 年齢構成

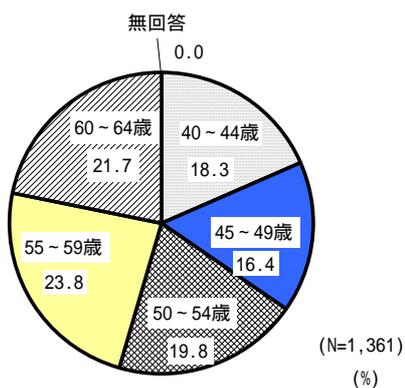
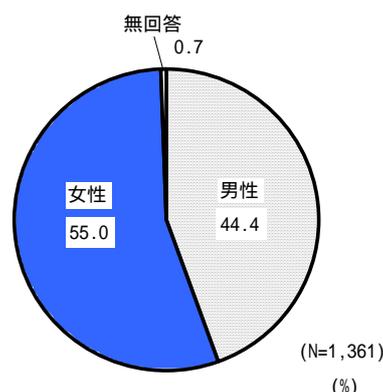


図 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「55～59歳」が23.8%と最も多く、次いで「60～64歳」が21.7%となっている。

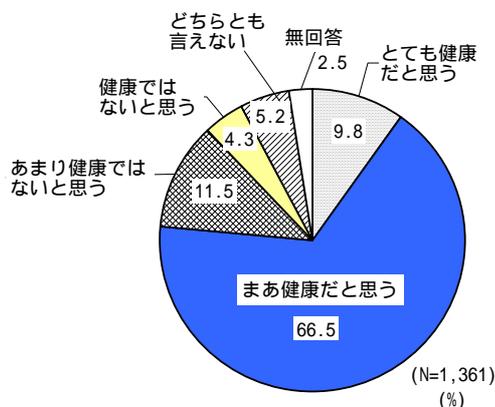
性別構成については、男性44.4%、女性55.0%と女性の方が多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 日ごろの健康状態

問8 あなたの日ごろの健康状態はいかがですか。（ は1つ）

図 日ごろの健康状態



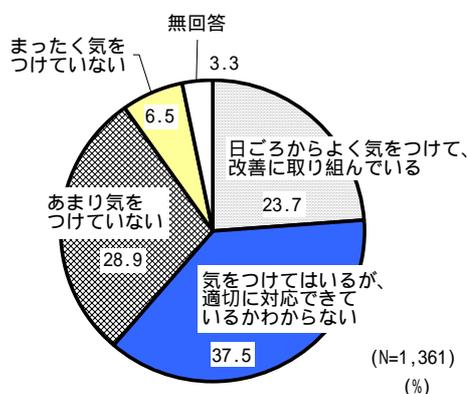
日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）が76.3%を占め、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）は15.8%となっている。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

問21 あなたは日ごろ、ご自分の心身の変化（足腰のおとろえ、気力がわかず何もしたくなくなるなど）に気を配り、早目に改善しておられますか。（ は1つ）

図 心身の変化への対応・改善の有無



心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の 61.2% であり、「改善に取り組んでいる」人は 23.7% となっている。

表 性・年齢別 心身の変化への対応・改善の有無

	調査数 (N)	心身の変化への対応・改善の有無 (%)				
		日ごろから気をつけて改善に取り組んでいる	気をつけてはいるが、適切に対応できているかわからない	あまり気をつけていない	まったく気をつけていない	無回答
男性 (全体)	604	19.6	35.9	32.6	8.2	3.7
40～44歳	112	13.3	36.2	41.0	6.7	2.9
45～49歳	100	20.6	30.8	40.2	6.5	1.9
50～54歳	123	23.6	40.0	26.4	7.3	2.7
55～59歳	132	17.5	38.3	30.8	9.2	4.2
60～64歳	137	22.6	33.5	27.4	10.4	6.1
女性 (全体)	748	27.3	38.6	26.0	5.1	2.9
40～44歳	135	21.3	29.1	40.2	6.3	3.1
45～49歳	121	24.8	38.8	24.8	7.8	3.9
50～54歳	147	25.0	38.6	31.1	4.5	0.8
55～59歳	188	31.6	41.5	20.5	4.1	2.3
60～64歳	156	31.6	43.3	16.6	3.7	4.8
無回答	9	-	51.6	24.0	12.2	12.2
合計	1361	23.7	37.5	28.9	6.5	3.3

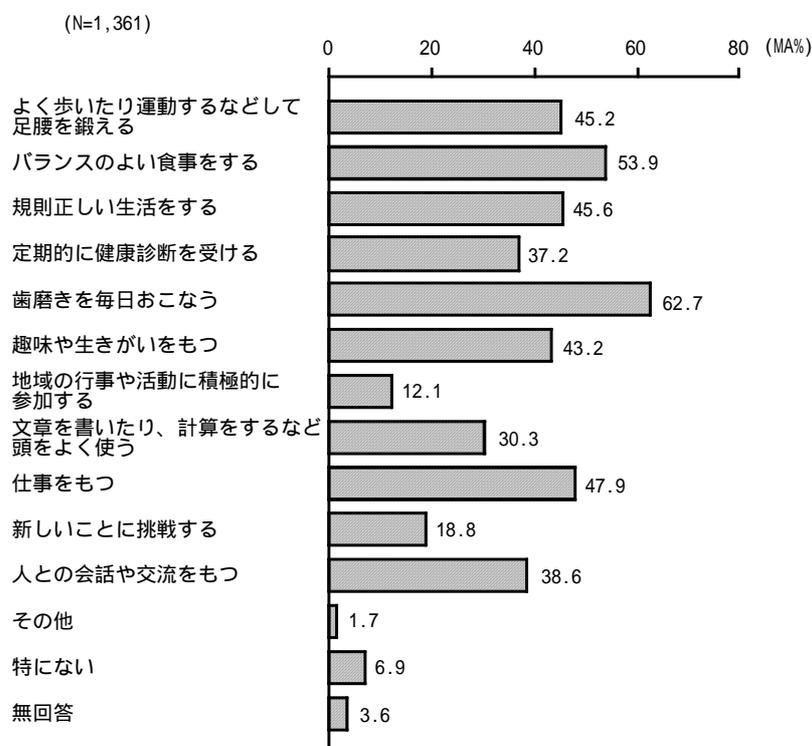
男性全体と女性全体を比べると、「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」人の割合は、男性 19.6% に対し、女性 27.3% と、女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」人の割合は、女性の 55～64 歳で 31.6% となっている。一方、「あまり気をつけていない」人の割合は、男性の 40 歳代、女性の 40～44 歳で、ともに 40% を超えている。

(2) 病気・老化の予防のために取り組んでいること

問24 あなたが日ごろ、病気の予防や健康づくり、老化の予防のために取り組んでおられることは何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 病気・老化の予防のために取り組んでいること



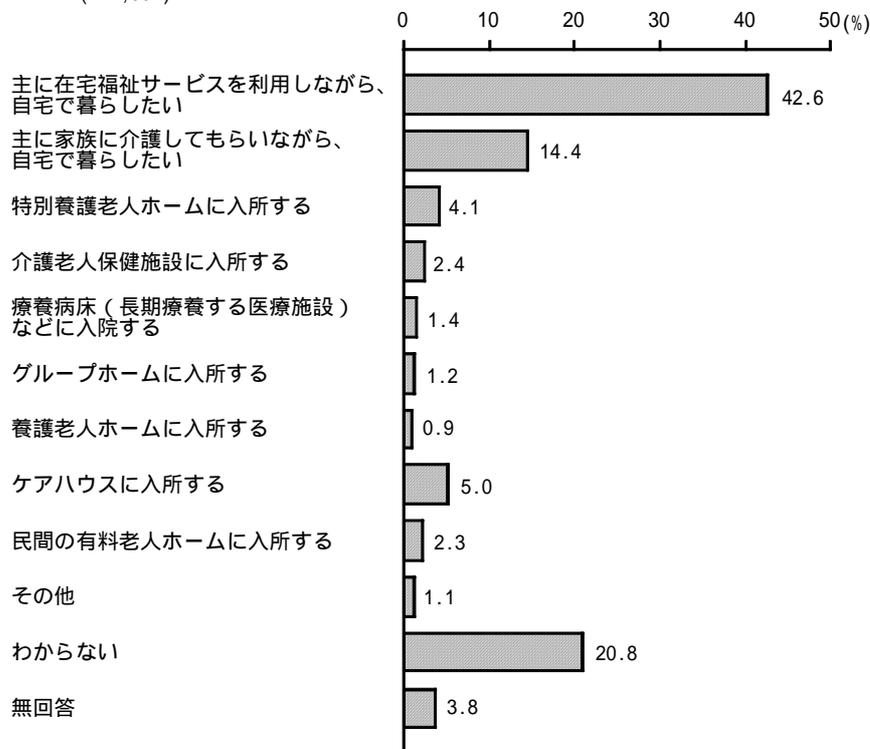
病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「歯磨きを毎日おこなう」が62.7%と最も多く、次いで「バランスのよい食事をする」(53.9%)、「仕事をもつ」(47.9%)、「規則正しい生活をする」(45.6%)、「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」(45.2%)、「趣味や生きがいをもつ」(43.2%)などとなっている。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

問26 もし、あなたに介護や援護が必要となった場合、住まいと介護についてどのような暮らし方を希望しますか。(は1つ)

図 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

(N=1,361)



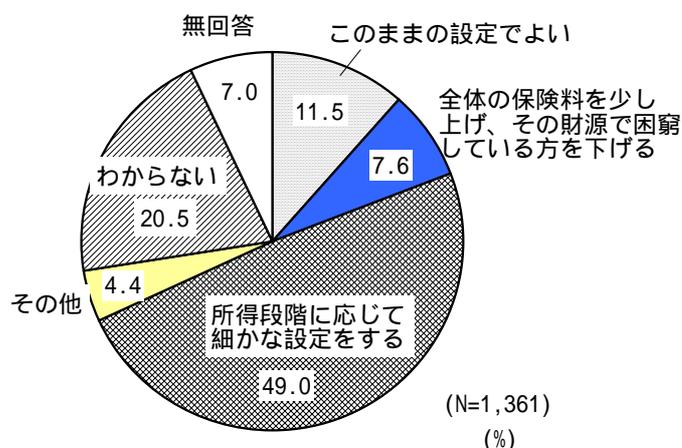
調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が42.6%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が14.4%となっており、合計すると全体の57.0%が自宅での生活を希望している。

4 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定方法について

問28 介護に必要となる費用の一部（約18%）は、第1号被保険者（65歳以上）が所得に応じて負担する保険料でまかなうことになっています。現在の所得段階別保険料は下記の表にあるとおりですが、この設定方法などについて、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。なお、制度の仕組みとして、低所得層（第1段階や第2段階）の保険料を軽減すれば、それ以外の方の保険料が増えることになります。（ は1つ）

図 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が49.0%と多く、「このままの設定でよい」は11.5%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は7.6%となっている。

【京都市における現在の第1号被保険者保険料】

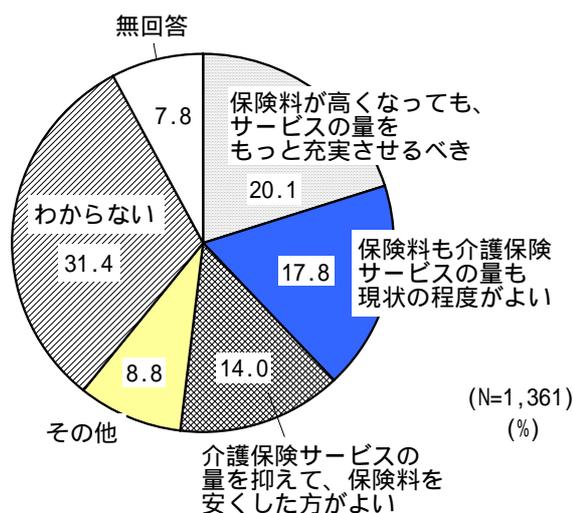
所得段階区分		設定の考え方	月額保険料
第1段階	本人が生活保護を受給している場合 本人が老齢福祉年金を受給し、本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合	基準額 ×0.5	1,933円
第2段階	本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合（本人が単身の場合を含む）	基準額 ×0.75	2,900円
第3段階	本人が市民税非課税で、世帯員の中に市民税課税者がいる場合	基準額	3,866円
第4段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円未満の場合	基準額 ×1.25	4,833円
第5段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円以上の場合	基準額 ×1.5	5,799円

あなたの介護保険料の所得段階区分については、平成16年7月に本市がお送りした平成16年度介護保険料の通知書に記載しています。

(2) 今後の保険料のあり方について

問29 介護保険制度では、施設サービスの利用者の割合が高いほど、また、利用者1人当たりの利用される介護サービス量が多いほど、介護保険料が高くなります。
 今後の保険料のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。
 (は1つ)

図 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」が20.1%、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が17.8%、「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」が14.0%となっている。

居宅サービス利用者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 年齢別・性別構成

問1 あなた（宛名のご本人：以下の問も同じ）の年齢は。（ は1つ）

問2 あなたの性別は。（どちらかに ）

図 年齢構成

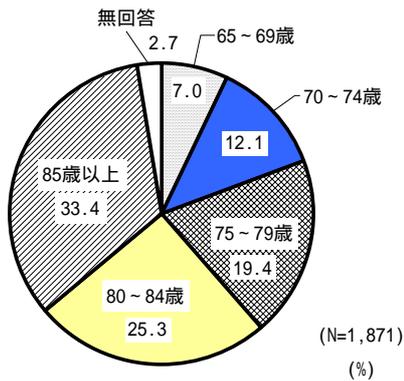
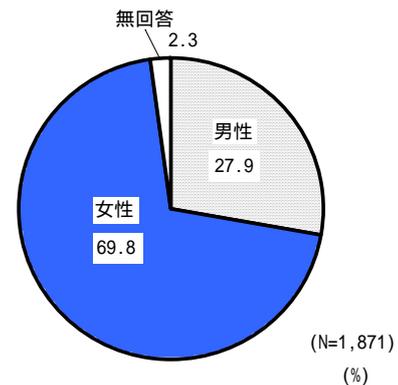


図 性別構成



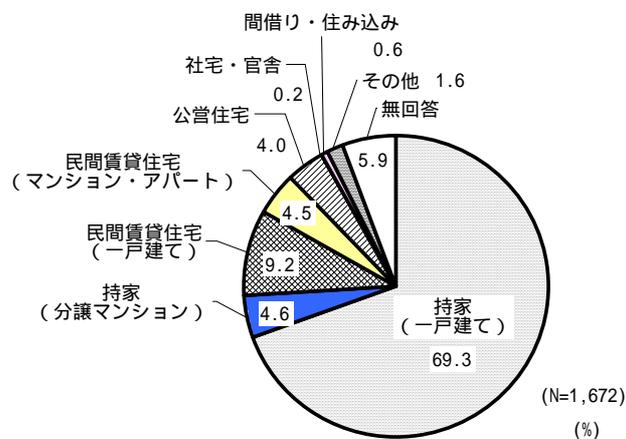
調査対象者の年齢構成は、「85歳以上」が33.4%と最も多く、次いで「80~84歳」（25.3%）、「75~79歳」（19.4%）と、年齢が上がるほど割合も高くなっている。

性別構成については、男性27.9%、女性69.8%と、女性の方が40%以上多くなっている。

(2) 住まいの形態

問5 副問1 あなたのお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（ は1つ）

図 住まいの形態

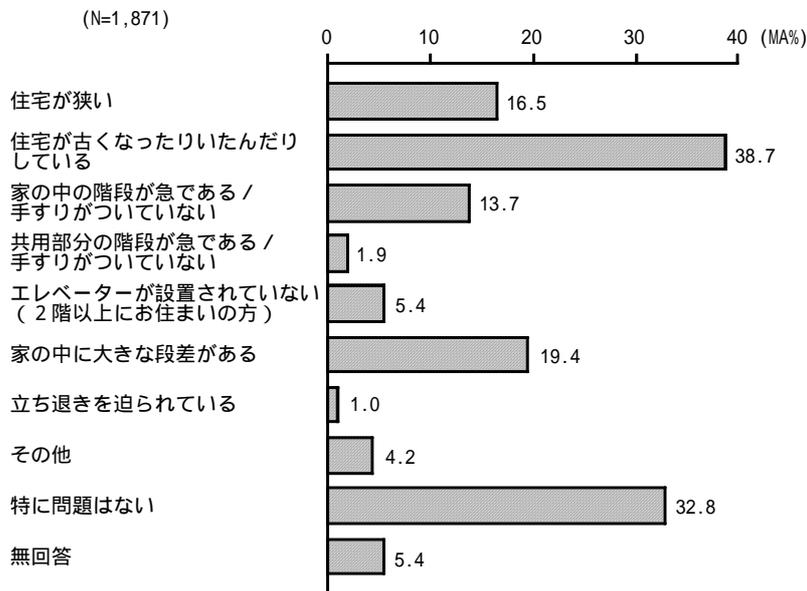


自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が69.3%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（一戸建て）」が9.2%、「持家（分譲マンション）」が4.6%、「民間賃貸住宅（マンション・アパート）」が4.5%となっている。

(3) 住まいの状況

問 5 副問 2 お住まいの状況についておたずねします。(あてはまるものすべてに○)

図 住まいの状況

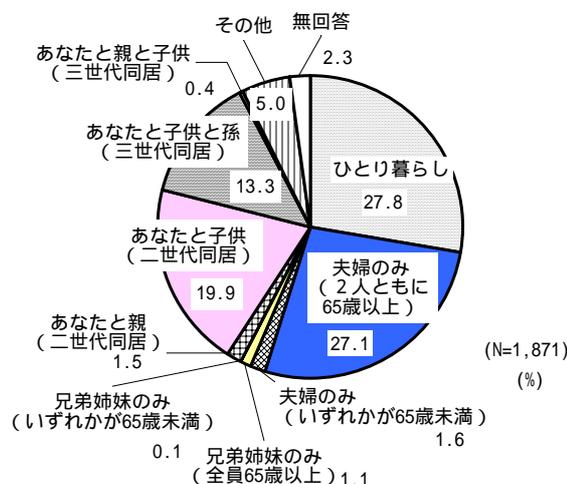


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が38.7%と最も多く、次いで「家の中に大きな段差がある」(19.4%)、「住宅が狭い」(16.5%)となっている。

(4) 世帯構成

問 6 ご家族の状況について、お答えください。(は1つ)

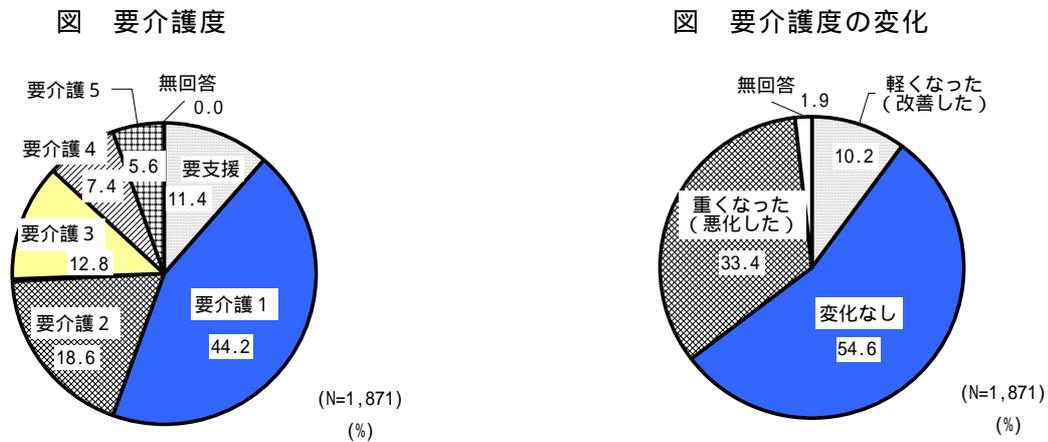
図 世帯構成



世帯構成は、「夫婦のみ (2人とも65歳以上)」「ひとり暮らし」がいずれも27%台と多く、次いで「あなたと子供 (二世帯同居)」(19.9%)、「あなたと子供と孫 (三世帯同居)」(13.3%)となっている。

(5) 要介護度の変化

問7 あなたの要介護度は次のどれにあてはまりますか。(は1つ)
 問7-2 あなたの要介護度は、以前と比べてどのように変化しましたか。(は1つ)



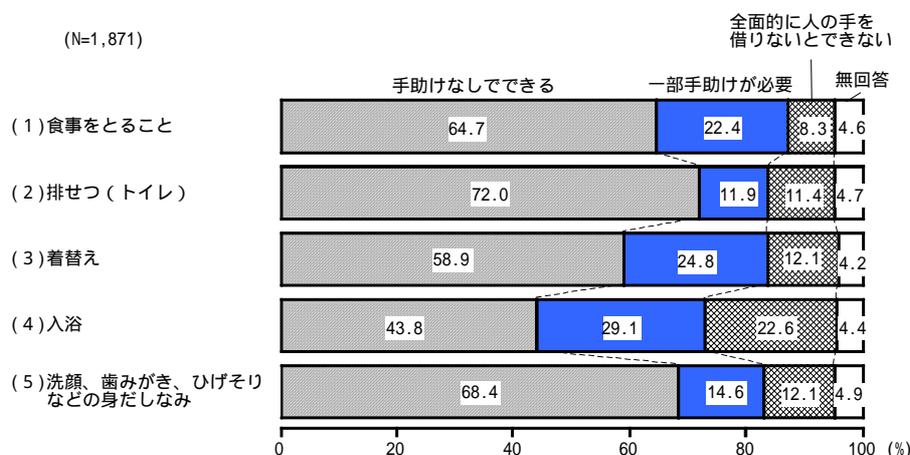
調査対象者の要介護度は、「要介護1」が44.2%と最も多く、次いで「要介護2」(18.6%)、「要介護3」(12.8%)となっている。

要介護度が以前に比べて「軽くなった(改善した)」は10.2%、それに対して「重くなった(悪化した)」は33.4%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について
 (1) 日常生活動作(基本的ADL)

問10 家の中での日ごろの状況についておたずねします。(1)~(5)のそれぞれについて、1つずつお答えください。(ふだん、つえや車イスなどを使用している方は、それを使用した状態での行動をお答えください。)

図 日常生活動作(基本的ADL)

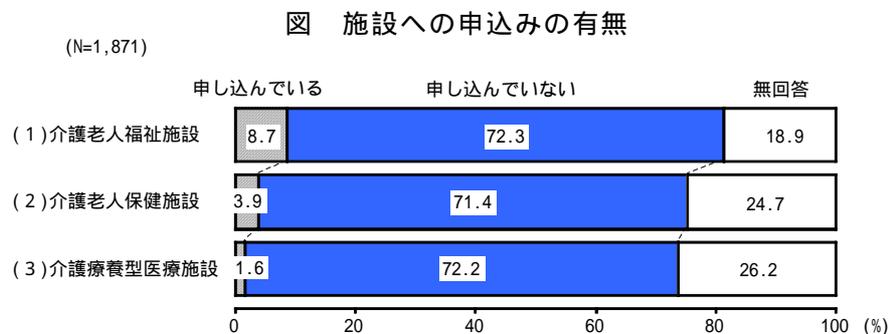


基本的な日常基本動作のうち、『(4)入浴』については「全面的に人の手を借りないとできない」が22.6%と多く、「一部手助けが必要」(29.1%)を合わせると、5割を超える人が介助を必要としているのがわかる。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 施設への申込みの有無

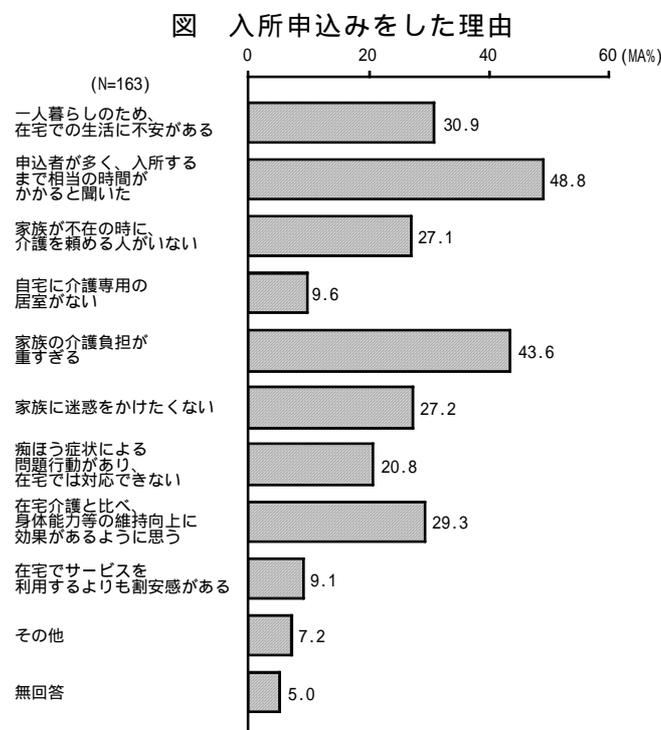
問23 現在、介護保険施設に入所（入院）の申込みをしていますか。



介護保険施設への申込み状況を見ると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が8.7%、介護老人保健施設が3.9%、介護療養型医療施設が1.6%となっている。

(2) 入所申込みをした理由

問23 副問1 入所の申込みをされたのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに ）

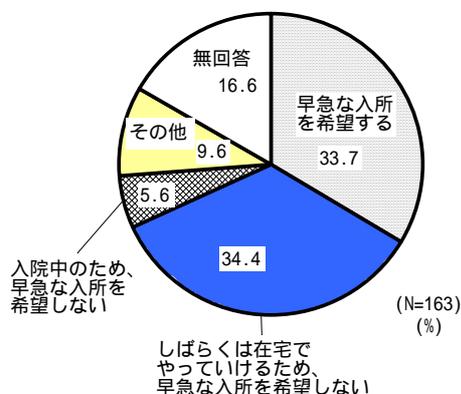


施設に入所申込みをした理由としては、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」が48.8%と最も多く、次いで「家族の介護負担が重すぎる」(43.6%)、「一人暮らしのため、在宅での生活に不安がある」(30.9%)「在宅介護と比べ、身体能力等の維持向上に効果があるように思う」(29.3%)などとなっている。

(3) 早急な入所希望の有無

問23 副問 3 施設への早急な入所を希望しますか。(は1つ)

図 早急な入所希望の有無



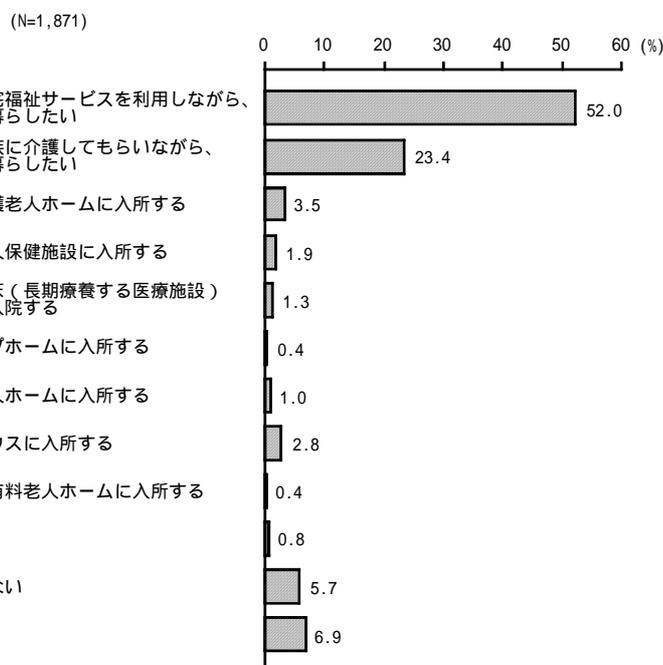
早急な入所を希望している人は 33.7% であり、「しばらくは在宅でやっつけられるため早急な入所を希望しない」が 34.4% となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 住まいと介護について希望する暮らし方

問29 今後、住まいと介護についてどのような暮らし方を希望しますか。(は1つ)

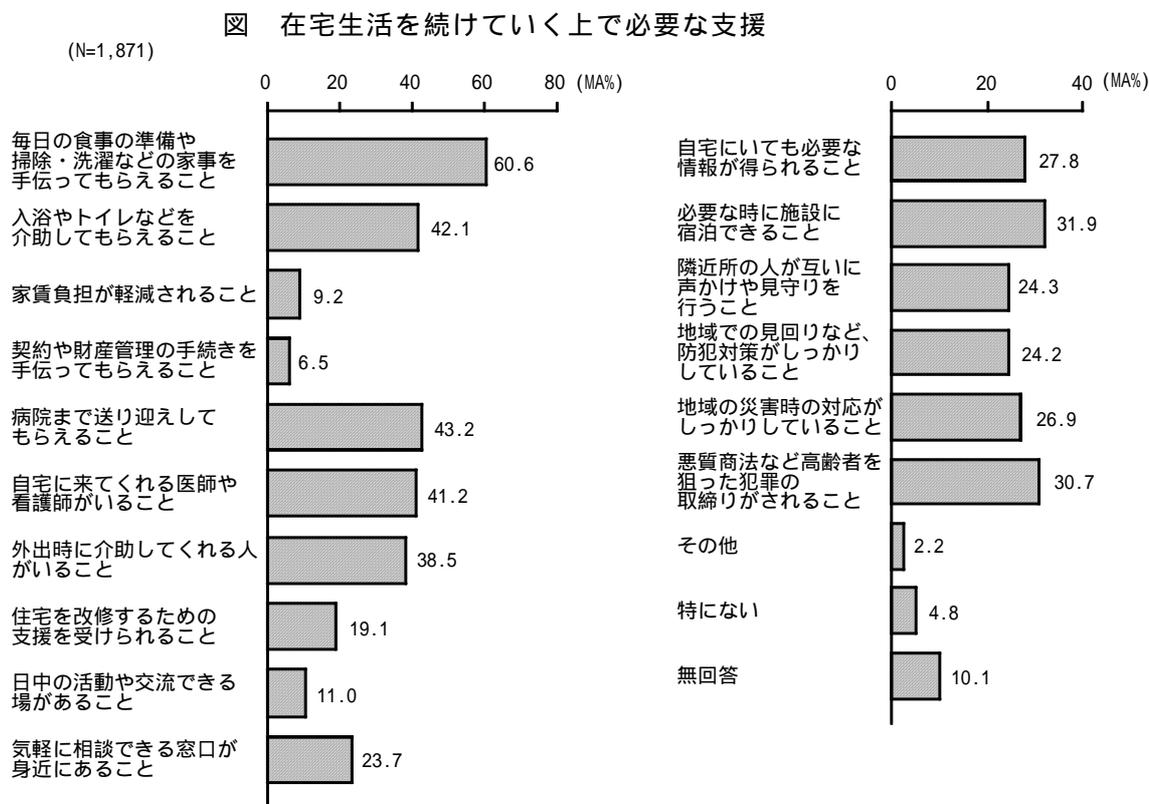
図 住まいと介護について希望する暮らし方



住まいと介護について希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 52.0%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 23.4% となっており、合計すると全体の 75.4% が自宅での生活を希望している。

(2) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

問30 では、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけるとお思いますか。(あてはまるものすべてに)



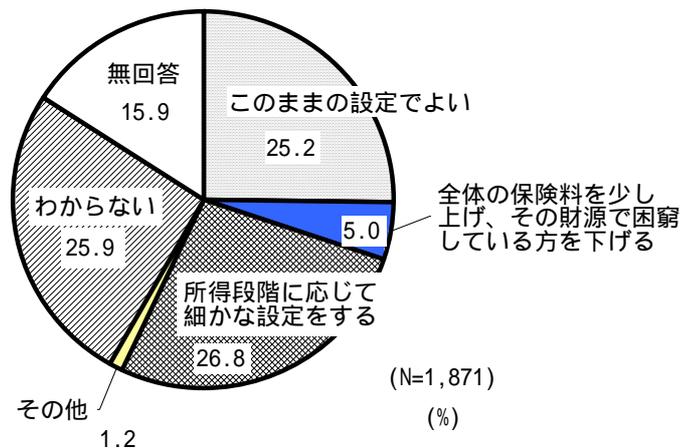
在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が60.6%と最も多く、次いで「病院まで送り迎えしてもらえること」(43.2%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(42.1%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(41.2%)、「外出時に介助してくれる人がいること」(38.5%)などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定方法について

問32 介護に必要となる費用の一部（約18%）は、第1号被保険者（65歳以上）が所得に応じて負担する保険料でまかなうことになっています。現在の所得段階別保険料は下記の表にあるとおりですが、この設定方法などについて、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。なお、制度の仕組みとして、低所得層（第1段階や第2段階）の保険料を軽減すれば、それ以外の方の保険料が増えることになります。（ は1つ）

図 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」（26.8%）、および「このままの設定でよい」（25.2%）が多く、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は5.0%となっている。

【京都市における現在の第1号被保険者保険料】

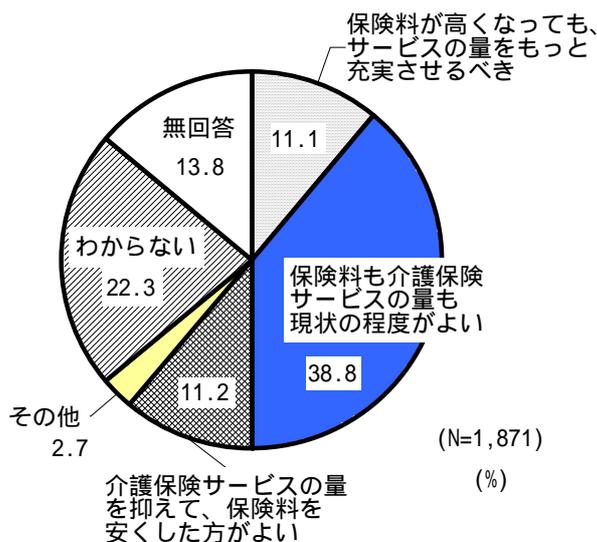
所得段階区分		設定の考え方	月額保険料
第1段階	本人が生活保護を受給している場合 本人が老齢福祉年金を受給し、本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合	基準額 ×0.5	1,933円
第2段階	本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合（本人が単身の場合を含む）	基準額 ×0.75	2,900円
第3段階	本人が市民税非課税で、世帯員の中に市民税課税者がいる場合	基準額	3,866円
第4段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円未満の場合	基準額 ×1.25	4,833円
第5段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円以上の場合	基準額 ×1.5	5,799円

あなたの介護保険料の所得段階区分については、平成16年7月に本市がお送りした平成16年度介護保険料の通知書に記載しています。

(2) 今後の保険料のあり方について

問33 介護保険制度では、施設サービスの利用者の割合が高いほど、また、利用者1人当たりの利用される介護サービス量が多いほど、介護保険料が高くなります。
 今後の保険料のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。
 (は1つ)

図 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が38.8%と多く、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」はともに10%強となっている。

6 在宅介護の状況について
 (1) 介護者の続柄・年代

問37 宛名の高齢者の方をふだん介護されている方（主な介護者）はどなたですか。
 (1) 続柄（ は1つ）
 (2) 年代（ は1つ）

図 介護者の続柄

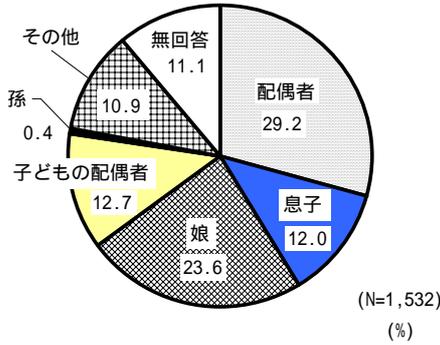
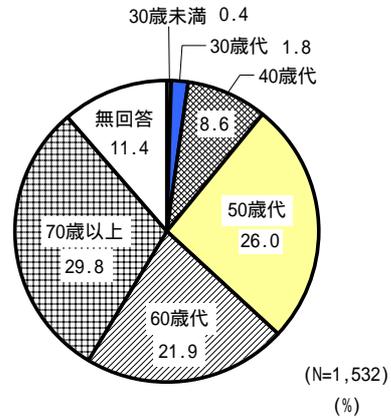


図 介護者の年代



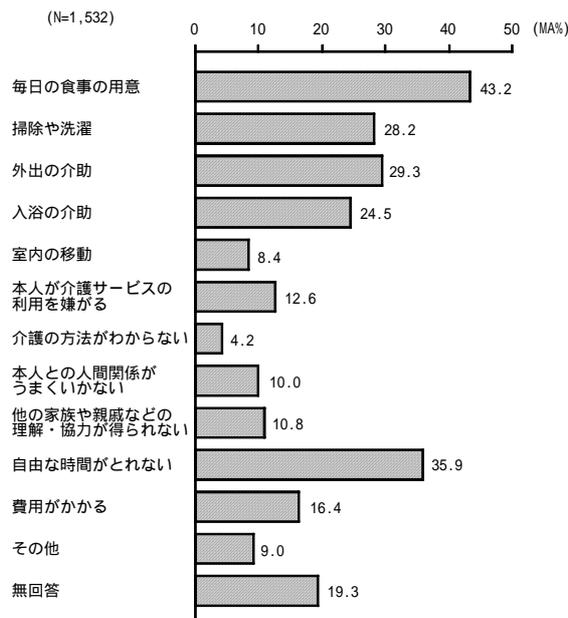
調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が 29.2%と最も多く、次いで「娘」(23.6%)が多くなっている。

介護者の年代は、「70歳以上」が 29.8%と最も多く、次いで「50歳代」(26.0%)、「60歳代」(21.9%)と、50歳以上が全体の 80%弱を占める。

(2) 在宅介護の負担について

問38 家庭での介護について、負担が大きいと感じるのはどのようなことですか。
 (あてはまるものすべてに)

図 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」「自由な時間がとれない」がともに 30%以上と多く、「掃除や洗濯」「外出の介助」「入浴の介助」の各項目についても 20%台と多くなっている。

居宅サービス未利用者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 年齢別・性別構成

問1 あなた（宛名のご本人：以下の問も同じ）の年齢は。（ は1つ）

問2 あなたの性別は。（どちらかに ）

図 年齢構成

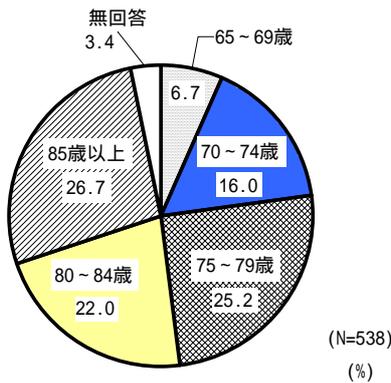
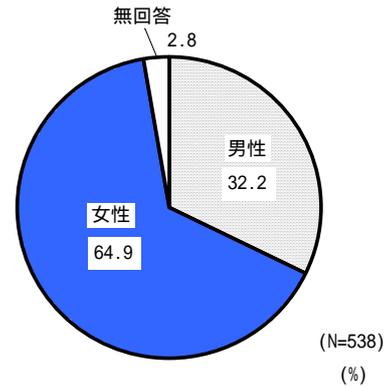


図 性別構成



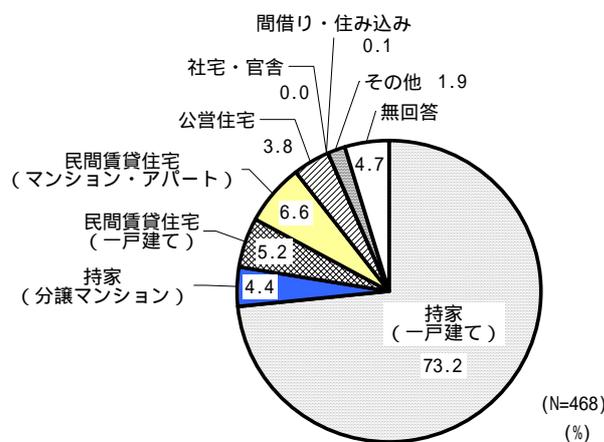
調査対象者の年齢構成は、「85歳以上」が26.7%と最も多く、次いで「80~84歳」（22.0%）、「75~79歳」（25.2%）となっている。

性別構成については、男性32.2%、女性64.9%と、女性の方が30%以上多くなっている。

(2) 住まいの形態

問5 副問1 あなたのお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（ は1つ）

図 住まいの形態

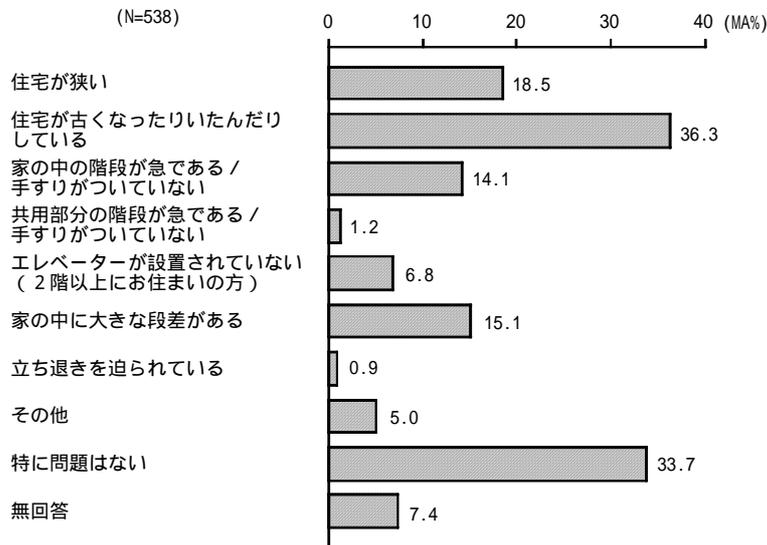


自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が73.2%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（マンション・アパート）」が6.6%、「民間賃貸住宅（一戸建て）」が5.2%などとなっている。

(3) 住まいの状況

問5 副問2 お住まいの状況についておたずねします。(あてはまるものすべてに○)

図 住まいの状況

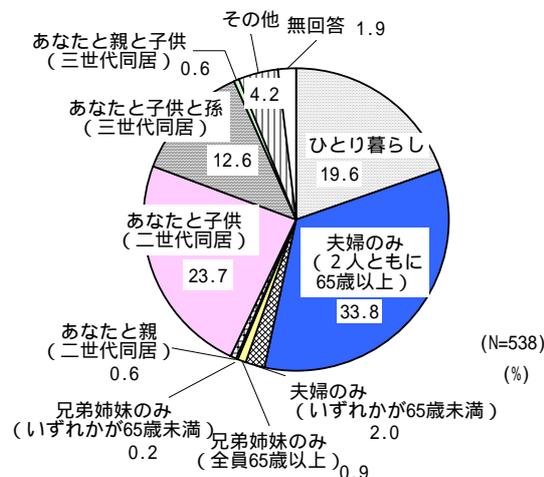


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が36.3%と最も多く、次いで「住宅が狭い」(18.5%)、「家の中に大きな段差がある」(15.1%)となっている。

(4) 世帯構成

問6 ご家族の状況について、お答えください。(は1つ)

図 世帯構成

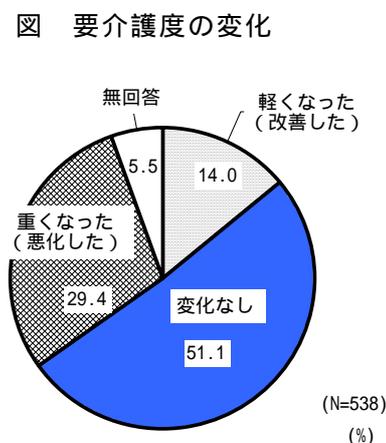
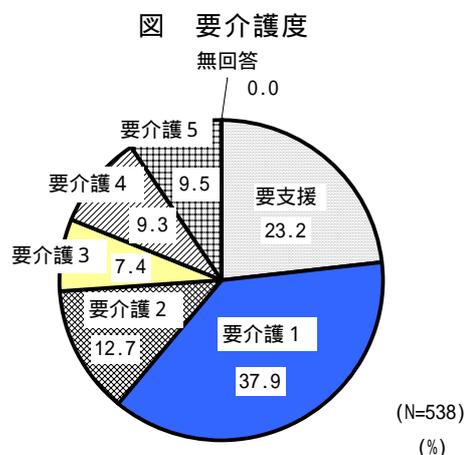


世帯構成は、「夫婦のみ(2人とも65歳以上)」が33.8%と最も多く、次いで「あなたと子供(二世帯同居)」(23.7%)、「ひとり暮らし」(19.6%)、「あなたと子供と孫(三世帯同居)」(12.6%)となっている。

(5) 要介護度の変化

問7 あなたの要介護度は次のどれにあてはまりますか。(は1つ)

問7-2 あなたの要介護度は、以前と比べてどのように変化しましたか。(は1つ)



調査対象者の要介護度は、「要介護1」が37.9%と最も多く、次いで「要支援」(23.2%)、「要介護2」(12.7%)、「要介護5」(9.5%)、「要介護4」(9.3%)、「要介護3」(7.4%)となっている。

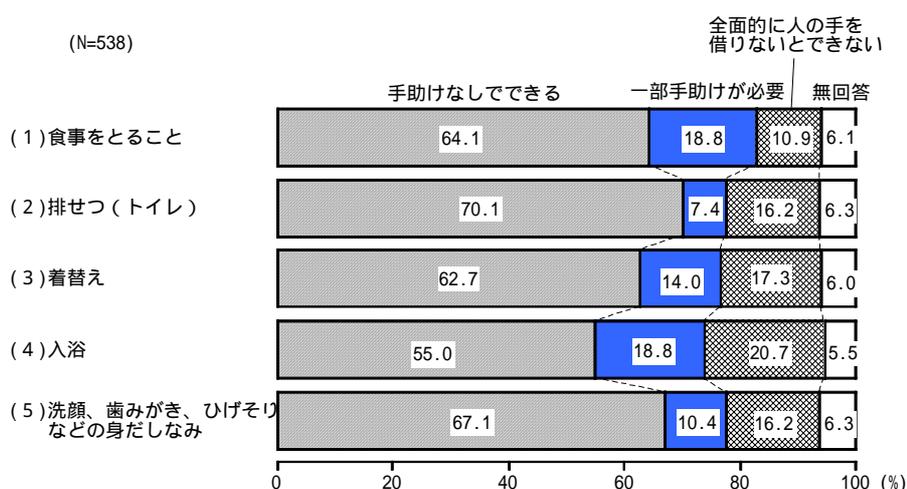
要介護度が以前に比べて「軽くなった(改善した)」は14.0%、それに対して「重くなった(悪化した)」は29.4%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 日常生活動作(基本的ADL)

問10 家の中での日ごろの状況についておたずねします。(1)~(5)のそれぞれについて、1つずつお答えください。(ふだん、つえや車イスなどを使用している方は、それを使用した状態での行動をお答えください。)

図 日常生活動作(基本的ADL)



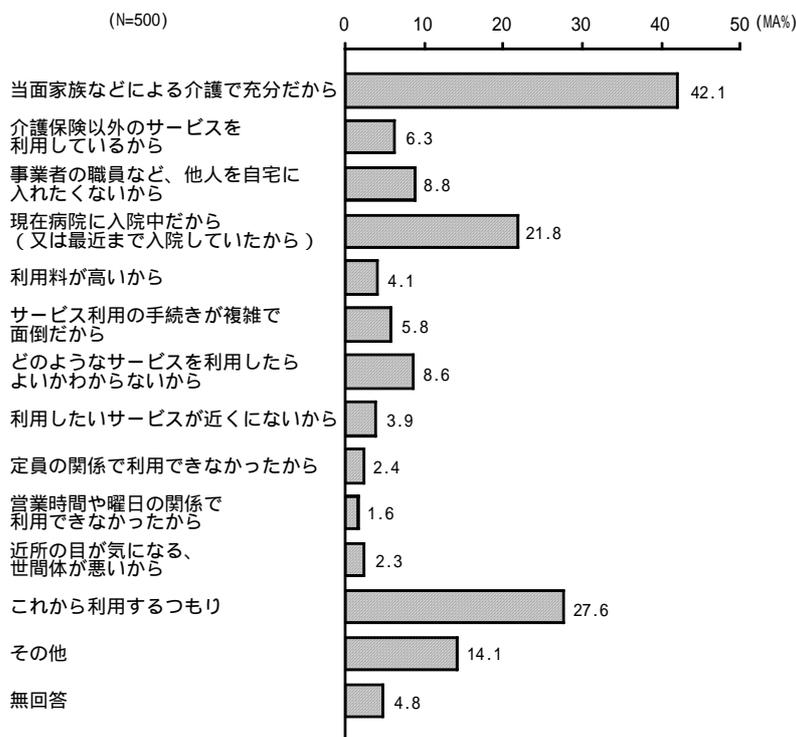
基本的な日常基本動作のうち、介助が必要な割合(「全面的に人の手を借りないとできない」に「一部手助けが必要」を加えた割合)が最も高いのは『(4)入浴』で39.5%となっている。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 介護保険サービスを利用していない理由

問19 副問 介護サービスを利用していない理由は、次のどれにあてはまりますか。
(あてはまるものすべてに)

図 介護保険サービスを利用していない理由

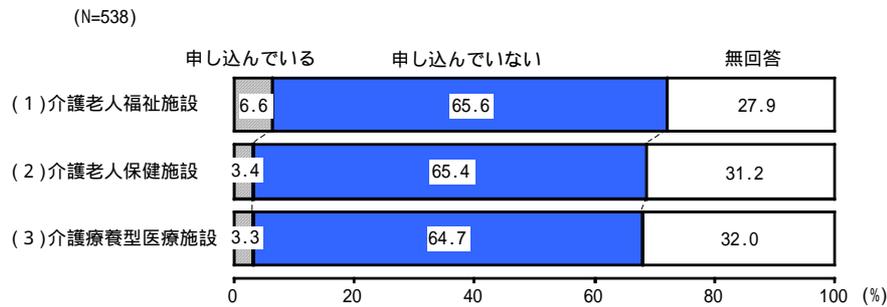


介護保険サービスを利用していない理由は、「当面家族などによる介護で充分だから」が42.1%と最も多く、次いで「これから利用するつもり」(27.6%)、「現在病院に入院中だから(又は最近まで入院していたから)」(21.8%)となっている。

(2) 施設への申込みの有無

問23 現在、介護保険施設に入所（入院）の申込みをしていますか。

図 施設への申込みの有無

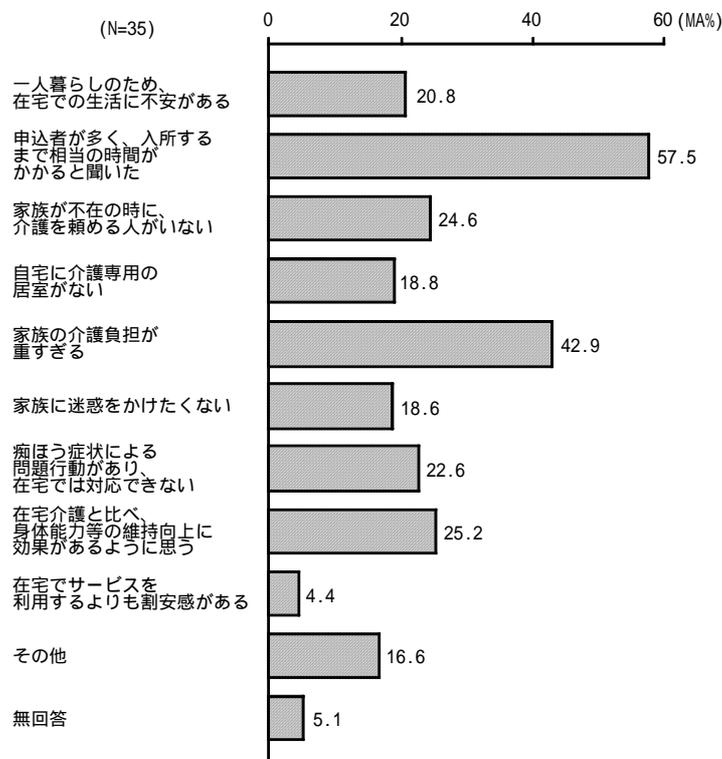


介護保険施設への申込み状況を見ると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が6.6%、介護老人保健施設が3.4%、介護療養型医療施設が3.3%となっている。

(3) 入所申込みをした理由

問23 副問1 入所の申込みをされたのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに ）

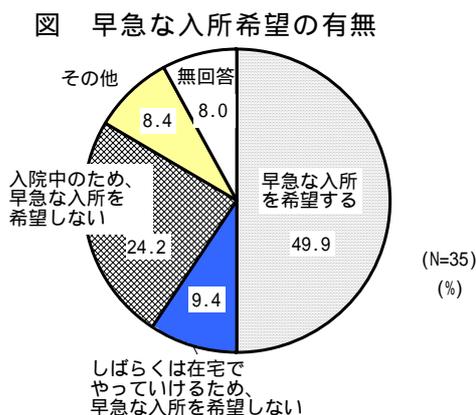
図 入所申込みをした理由



施設に入所申込みをした理由としては、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」が57.5%、「家族の介護負担が重すぎる」が42.9%などとなっている。

(4) 早急な入所希望の有無

問23 副問 3 施設への早急な入所を希望しますか。(は1つ)



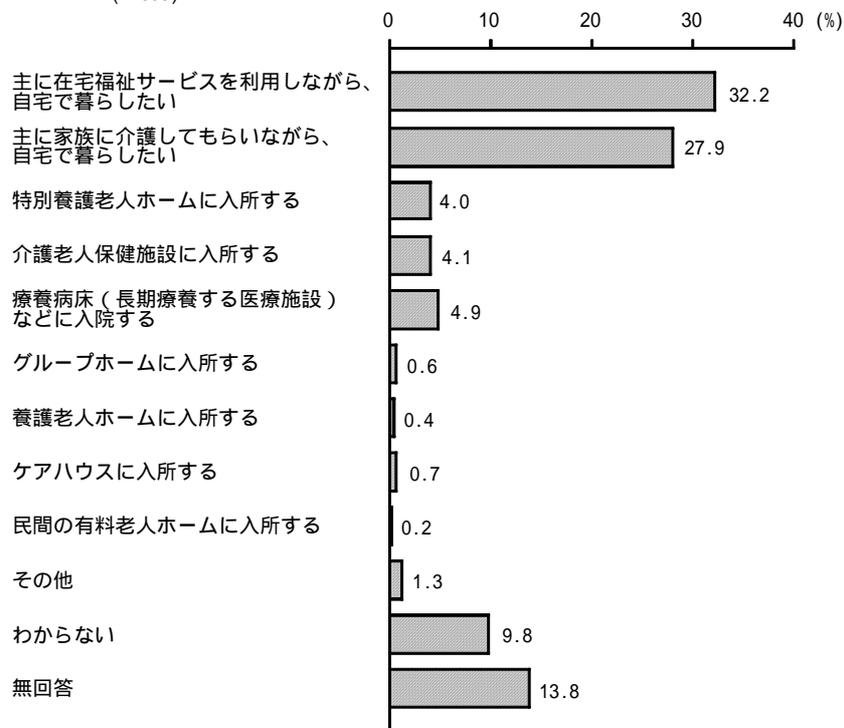
施設への早急な入所を希望している人は 49.9%と約半数を占め、「入院中のため、早急な入所を希望しない」が 24.2%となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 住まいと介護について希望する暮らし方

問29 今後、住まいと介護についてどのような暮らし方を希望しますか。(は1つ)

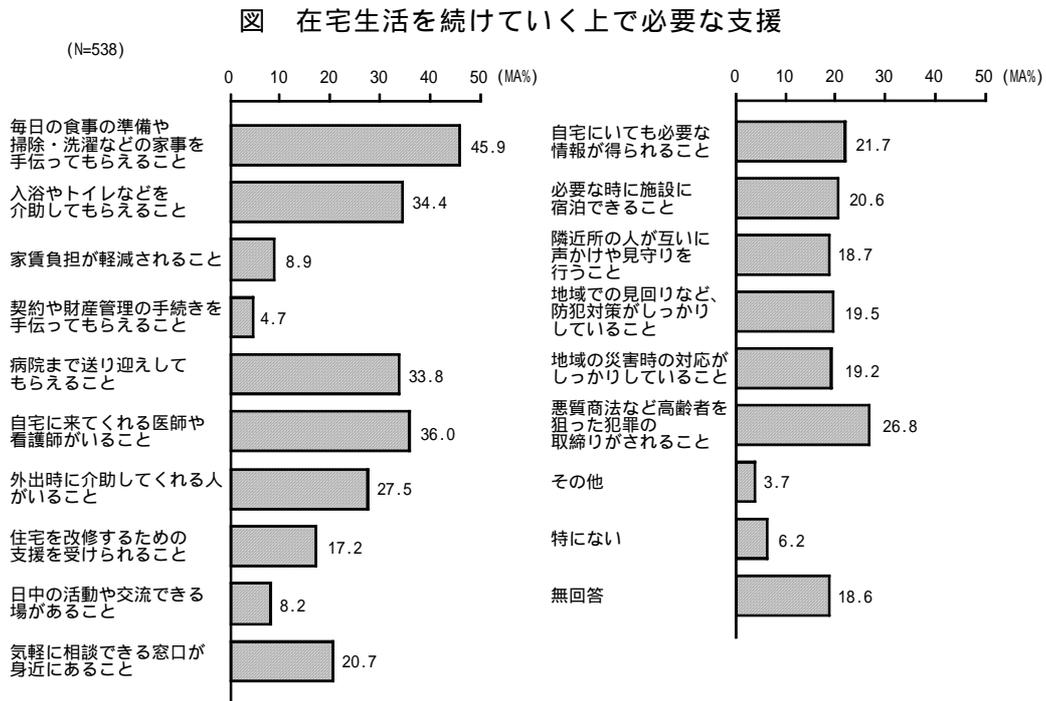
図 住まいと介護について希望する暮らし方
(N=538)



住まいと介護について希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 32.2%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 27.9%となっており、合計すると全体の 60.1%が自宅での生活を希望している。

(2) 在宅生活を続けていく上での必要な支援

問30 では、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけるとお思いますか。
(あてはまるものすべてに)



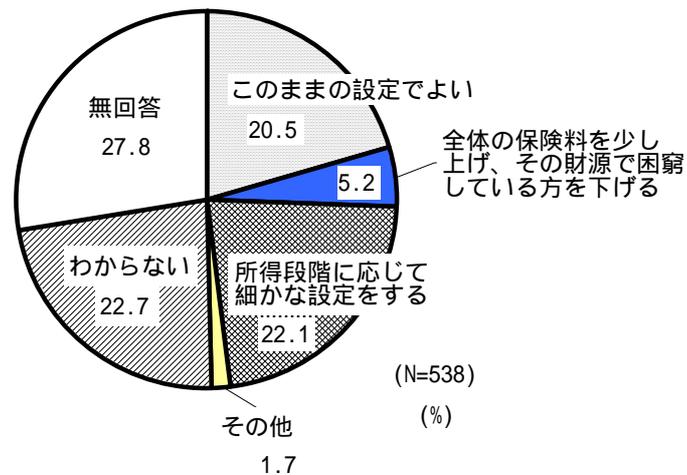
在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が 45.9%と最も多く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(36.0%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(34.4%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(33.8%) などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 介護保険料の設定方法について

問32 介護に必要となる費用の一部（約18%）は、第1号被保険者（65歳以上）が所得に応じて負担する保険料でまかなうことになっています。現在の所得段階別保険料は下記の表にあるとおりですが、この設定方法などについて、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。なお、制度の仕組みとして、低所得層（第1段階や第2段階）の保険料を軽減すれば、それ以外の方の保険料が増えることになります。（は1つ）

図 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が22.1%と最も多く、「このままの設定でよい」は20.5%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は5.2%となっている。

【京都市における現在の第1号被保険者保険料】

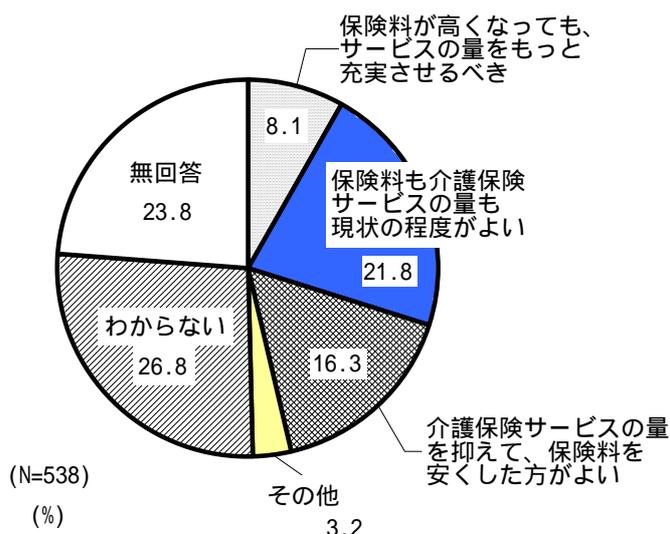
所得段階区分		設定の考え方	月額保険料
第1段階	本人が生活保護を受給している場合 本人が老齢福祉年金を受給し、本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合	基準額 × 0.5	1,933円
第2段階	本人及びすべての世帯員が市民税非課税の場合（本人が単身の場合を含む）	基準額 × 0.75	2,900円
第3段階	本人が市民税非課税で、世帯員の中に市民税課税者がいる場合	基準額	3,866円
第4段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円未満の場合	基準額 × 1.25	4,833円
第5段階	本人が市民税課税で、前年の合計所得金額が200万円以上の場合	基準額 × 1.5	5,799円

あなたの介護保険料の所得段階区分については、平成16年7月に本市がお送りした平成16年度介護保険料の通知書に記載しています。

(2) 今後の保険料のあり方について

問33 介護保険制度では、施設サービスの利用者の割合が高いほど、また、利用者1人当たりの利用される介護サービス量が多いほど、介護保険料が高くなります。今後の保険料のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。(は1つ)

図 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が21.8%と最も多く、次いで「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」(16.3%)、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」(8.1%)となっている。

6 在宅介護の状況について
 (1) 介護者の続柄・年代

問37 宛名の高齢者の方をふだん介護されている方(主な介護者)はどなたですか。
 (1) 続柄(は1つ)
 (2) 年代(は1つ)

図 介護者の続柄

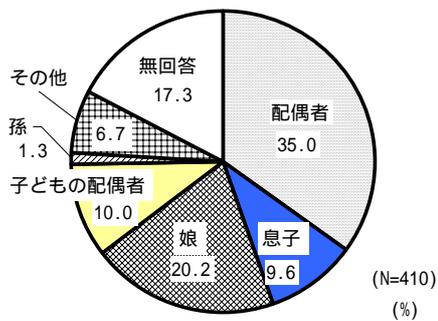
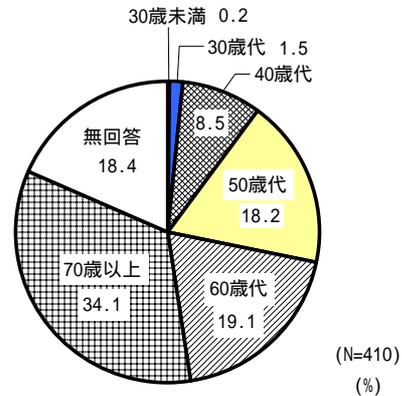


図 介護者の年代



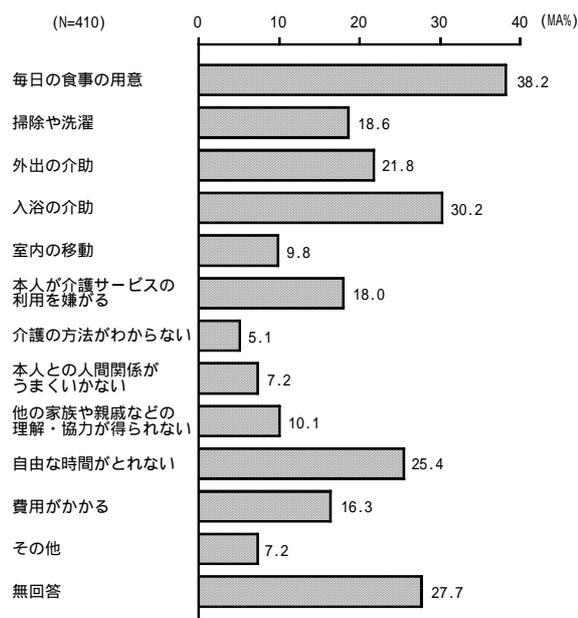
調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が35.0%と最も多く、次いで「娘」(20.2%)となっている。

介護者の年代は、「70歳以上」が34.1%と最も多く、次いで「60歳代」が19.1%、「50歳代」が18.2%と、50歳以上が全体の70%強を占める。

(2) 在宅介護の負担について

問38 家庭での介護について、負担が大きいと感じるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに)

図 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」が38.2%と最も多く、次いで「入浴の介助」(30.2%)、「自由な時間がとれない」(25.4%)、「外出の介助」(21.8%)となっている。